氏名	高　田　　茂
学位の種類	医　学　博　士
学位授与番号	乙　第478号
学位授与の日付	昭和46年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	**子宮頸癌放射線治療におけるリンパ系造影法の研究**
論文審査委員	教授　山本道夫　　教授　田中早苗　　教授　砂田輝武

学位論文内容の要旨

子宮頸癌治療においてリンパ節転移を如何にして診断し，治療するかは極めて重要な問題である。当教室伊藤の手術例について得られた判定基準をもとに110例の頸癌放射療法例にリンパ系造影法及び尿路系造影を行い，臨床的事項との相関を求めた。又，適切な照射野の設定の個別化の為にシミュレーター撮影を行い，照射野の設定上有意義な成績をえた。次に腔内照射による骨盤壁リンパ節の被照射線量を20例について算定し，A点でほぼ5,500R，B点で，1,500R，最も癌転移のみられ易い内腸骨節部で1,000Rと云う値をえた。次に，リンパ系造影後，経時的に撮影し，照射によるリンパ節縮少度と臨床的効果との関連を求め，その結果，その縮少度と予後との間に関連がある事を認めた。又縮少のみられなかった4例について腹膜外リンパ節摘出を行い，明らかな癌細胞の増生を認めた。

以上子宮頸癌放射療法例にリンパ系造影法を行い，臨床上治療方針に有意義な知見をえた。今後放射療法例において本法は頻用されるべき検査法であると考える。

備考：(昭和46年2月1日　日本産科婦人科学会雑誌　第23巻，2号に掲載)

論文審査の結果の要旨

本研究は，子宮頸癌治療においてリンパ節転移を診断し，如何に治療するかという重要な問題を対象とし，頸癌放射療法にリンパ系造影法及び尿路系造影を行い，臨床的事項との相関性を追及し，又照射野の設定上有意義な結果を得ており今後放射線療法に際して有用なものと考える。

よって，本研究者は，医学博士の学位を得る資格があると認める。